2025 業界団体メッセージ

超音波技術による社会への貢献が使命

超音波工業会 会長　松原　史郎

昨年は、100年に一度といわれるパンデミックをようやく乗り越えたと実感できた矢先に、能登の震災という不幸な出来事で始まり、夏の猛暑や豪雨災害、いわゆる「闇バイト」と言われる犯罪や特殊詐欺の多発による体感治安の悪化など、感染症とは別の意味で私たちの生活に不安を与える出来事が多い一年でした。一向に収束の気配が見通せない世界各地の紛争や不透明な中国経済の動向、更に復活するトランプ政権となる米国の動向など、良い方向か悪い方向かは別として、世界的にも一層混迷を深めそうな2025年が始まりました。

当会は、超音波エネルギー応用機器およびその関連機器を製造販売している企業および特別会員（個人・学識経験者等）で構成され、相互の協力により超音波技術の向上を図り、業界の健全な発展に寄与することを目的に活動しております。また、業界の監督官庁と会員企業様との橋渡しを担い、産官学の連携をスムーズに行う潤滑油としての役割も果たしてまいりました。

昨年は当会技術部会におきまして新たに当会規格である「USMAJS－006 超音波加工機」を作成し、この1月に発行の運びとなりました。この規格が超音波加工機を製造する企業および使用するユーザ様の利益・技術向上の一助になればと期待しております。

超音波技術はニッチな技術ではありますが、洗浄・接合・溶着・切断といった工業分野から、計測・環境・医療といった産業全般にわたる非常に応用分野の広い技術です。超音波エネルギー応用機器は、半導体製造装置からマスクの製造、ケーキカッター、上下水道の管理や噴霧器など多種多様な分野で社会に貢献しております。

早いもので21世紀も最初のクオータが経過しようといています。私は2001年を中堅エンジニアとして迎えました。米国での同時多発テロやイチロー氏のMLBでの新人賞とMVPの同時受賞などがあった年です。この間本当にさまざまなことがありましたが、この25年間を振り返って特に感じることは、情報の速度・量の爆発的な増加です。社会全体がそれらに追い立てられてあたふたしているように感じています。ともすると不安ばかりが頭を擡げることの多い現状ではありますが、次世代の方々の成長が実感できる場に出くわすとそのような不安が払拭される気がいたします。当会および会員企業は、次の25年に向けて次世代にしっかり超音波技術を繋いでいくという意識を持ち、ステークホルダーの期待に応え、引き続き社会に貢献していくことが使命であると強く意識し、本年も活動を行ってまいります。